

昭和46年11月27日

(1500円)

特許庁長官 殿

通

明細書

1. 考案の名称

ヘッドホーン用通気性耳当て

2. 考案者

実用新案登録出願人同じ

3. 実用新案登録出願人

スマズシセンボビドリヨウ
静岡県沼津市千本郷町1910田中カバ
吉信

4. 添附書類の目録

(1) 明細書	1	通
(2) 図面	1	通
(3) 説明書	1	通

往來、ヘッドホーン用耳当ては多種あるが、い

1. 考案の名称
ヘッドホーン用通気性耳当て
2. 実用新案登録請求の範囲
通気性及び弾力性を有する発泡樹脂材で構成される内板形耳当て本体(1)の正面及び側面を、伸縮性布(2)により取締力を保持させて被覆し、伸縮性布(2)の端末(3)と、前記円板形耳当て本体(1)の背面に重ね合わせた円環形の柔軟性嵌着ツバ(4)の外側(5)とを加熱溶着又は縫合した構造になるヘッドホーン用通気性耳当て。
3. 考案の詳細な説明
本考案によるヘッドホーン用通気性耳当ては、通気性と弾力性を有する発泡樹脂材で構成される内板形耳当て本体の正面及び側面を、伸縮性布で取締力を保持させて被覆し、この伸縮性布の端末と、前記円板形耳当て本体の背面に重ね合わせた円環形の柔軟性嵌着ツバの外側とを加熱溶着又は縫合した構造の耳当てに属する。

これらも弾力性を有する発泡樹脂材全体を、通気性及び吸汗性のないビニールシート等で被覆し、ヘッドホーンとの嵌着部を別個に設計たものや、発泡樹脂材を複数に被覆して嵌着部を構成した構造のもののが多かつた。

従つて通気性、吸汗性に之しく弾力性をも削減し、かつ製造工程が複雑化したので実用上及び生産上種々の欠点を有していた。

本考案による耳当ては、従来品の欠点を改良しかつ生産工程を簡略化するものである。

以下図面により本考案による耳当てを説明する。
第1図は本考案による耳当ての側断面図、第2図は外観図を示し、通気性及び弾力性を有する発泡樹脂材で構成される円板形耳当て本体(1)の正面に伸縮性布(2)を重ね合わせ、その端部で更に耳当て本体(1)の全側面を被覆し、これと別に耳当て本体(1)の背面に円環形の柔軟性嵌着ツバ(4)を重ね合わせ、前述の伸縮性布(2)を伸した状態でその端末(3)と嵌着ツバ(4)の外縁(5)とを加熱溶着又は縫合して連結する。従つて伸縮性布(2)は常時取締力が作用

するから、耳当て本体(1)の角は圧縮され、角は曲線を形成する。更に耳当て本体(1)の背面と嵌着ツバ(4)との間は接合されていないので、耳当て本体(1)の弾力性の利用によりヘッドホーンの嵌着肩掛け(6)が形成される。

この場合、伸縮性布(2)と嵌着ツバ(4)とを加熱溶解して接着させるとときは、嵌着ツバ(4)は熱可塑性の柔軟性樹脂を主材又は表面処理材とした厚手シートを使用して熱溶着を容易にする。

前記円板形耳当て本体(1)の形状は、第3図に示す如く円板形の発泡樹脂材に種々加工する事任意である。即ち(3)側は孔なしの円板形、(32)側は円環形、(33)側は細孔を多數穿設した円板形の実施例である。これら孔(8)は通気性を更に向上する効果を有する。

前述の伸縮性布(2)の端末(3)と、嵌着ツバ(4)の外縁(5)との接着又は縫合は、耳当て本体(1)を被覆した後行う事も、或は先づ接着又は縫合し、耳当て本体(1)を後で嵌合させる事も任意である。

又、接着又は縫合箇所は第4図(4)に示す如

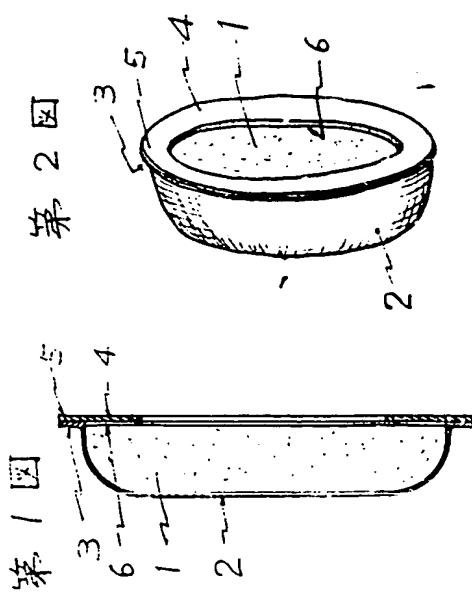
く露出させる事も、或は(2)図に示す如く裏返しにして内蔵させる事も任意である。

第5図は本考案による耳當てを、ヘッドホーンに嵌着した場合の状態を示し、彈力性を行する円板形耳當て本体(1)と嵌着ツバ(4)とが接する嵌着用凹隙(5)に耳當て本体(1)の彈力性と嵌着ツバ(4)の柔軟性とを利用してヘッドホーン(7)の嵌着部を容易に挿入し嵌着する事ができる。

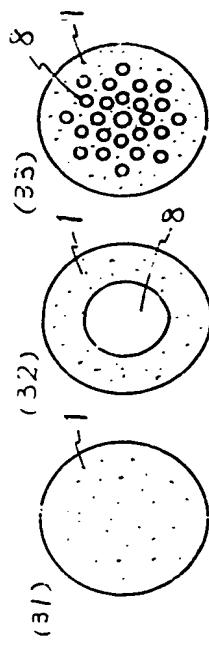
以上の通り、本考案による耳當ては耳當て本体(1)が発泡樹脂で構成され、人体の耳朶と接觸する皮膚が伸縮性布(2)であるから、彈力性、吸汗性は勿論、特に通気性に富み、更に発泡樹脂材が不快な臭音に対する音響フィルター効果を有する等、すぐれた実用性を發揮する耳當てである。又、耳當て本体(1)は彈力性を利用して自由に嵌着又は脱去する事ができるから耳當て内部の清掃や消毒も併せて容易に行う事ができる。又、極めて單純な構造であるから製造工程を著しく簡略化し、価格を低廉にする事となる。

4. 画面の簡単な説明

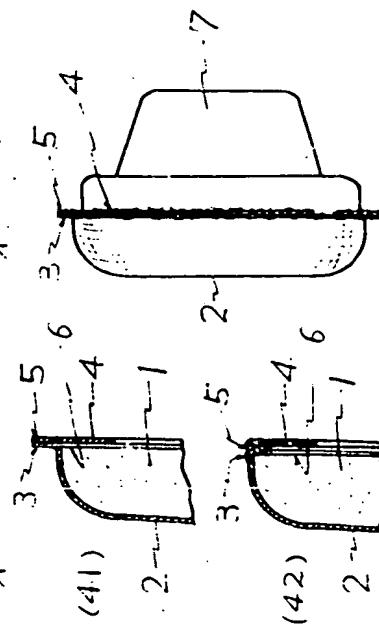
BEST AVAILABLE COPY



第3図



第4図



第5図

